

大原台

〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862
TEL: 099 - 294 - 2311
FAX: 099 - 294 - 2309
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>

かごしま教育ホットライン24
0120-783-574 (フリーダイヤル)
099-294-2200 (直通)
0570-0-78310 (全国統一ダイヤル)

平成26年度 調査研究発表会 (報告)

参加者 410人!
ありがとうございました



平成27年1月30日(金)開催

<全体研究主題>

生きる力を豊かに育てる学校教育の創造

研究発表 I

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力に関する研究 ～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

- ・ 思考力・判断力・表現力の指導がしやすく、また効率的な内容で今後の指導に生かしたいと思いました。(小学校教諭)
- ・ 思考・判断・表現に対する評価の視点や考え方を具体的に示していただきとても分かりやすかった。授業で実際に活用していけそうです。(中学校教諭)

- ・ 「判断基準」の開発については客観的指標の開発を目指しているのではなく、教師がどれだけ深く子供を見取れるか、そのために必要な基準をどのように設定していくかに目的があり、教師自身がその基準を開発・設定していくことを目指している点で価値がある。
- ・ 「判断基準」を日々の授業で意識しておくだけでも、子供をみる力は向上していく可能性が高い。
- ・ 何ができるようになることが目標なのかを「判断基準」という形で教師だけが認識しているのではなく、学習者である子供自身もそれを共通認識できるにはどのような工夫が必要か、今後研究に取り組んでもらいたい。



教科教育研修課による発表



鹿児島大学教育学部
高谷 哲也 准教授

研究発表 II

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究 ～「学校楽しいと」等を活用した児童生徒への対応～

- ・ 不登校については「学校楽しいと」を効率よく活用して、学校での支援体制等についても見直しをしたいと思います。(中学校教諭)
- ・ 生徒一人一人に着目することが大切であると感じました。学んだことを実践し、自分のものにしたいと思います。(高等学校教諭)

- ・ 「学校楽しいと」は診断的評価であると同時に形成的評価である。先生方がどのような支援をすることで、子供がどのように変容するのかということが分かる。
- ・ 学校への適応という観点で考えると、子供にはその適応先がある。適応先がどこであるのか、どうなのかという点を抜きにしては子供の見取りはできない。
- ・ 客観資料を使うときは先生一人一人の観察と見方を合わせることで児童理解につながる。その意味で、一人一人が違う子供たちに対し、「チーム支援シート」は何ができるかを提案できるツールとなる。



教育相談課による発表



鹿児島大学教育学部
大坪 治彦 教授

各分科会の様子は次ページに掲載しています。

全体会

分 科 会

午後からは8分科会に分かれて研究発表、事例発表、ワークショップ型の研究協議を行いました。

第1～5分科会研究主題

学習内容の関連を踏まえた思考力・判断力・表現力の育成に関する研究
～「判断基準」に基づく指導と評価を通して～

第2分科会 社会・地歴・公民科



普段、一人で授業内容について悩んでいるが、数人で語りながらの授業づくりは楽しく勉強になった。
(中学校教諭)

第4分科会 理科



中・高の取組を知ることができ、積み上げの大切さを実感するとともに校種間の連携の大切さを改めて感じた。
(小学校教諭)

第6分科会 情報教育

情報活用能力の育成に関する研究Ⅱ
～言語活動の充実に資するICT活用の在り方～



言語活動の充実に資するためにICT活用をどのように進めたいか、各校の事例がとても参考になった。
(中学校教諭)

第8分科会 教育相談

不登校の未然防止と支援の在り方に関する研究
～「学校楽しいと」等を活用した児童生徒への対応～



実際に「チーム支援シート」を使った実践事例がとても参考になった。学校でぜひ活用し、支援体制を整えたい。
(小学校教諭)

第1分科会 国語科



高等学校は学校によって生徒の実態が大きく異なるので、生徒に合わせた指導が本当に大切であると思った。
(高等学校教諭)

第3分科会 算数・数学科



二つの単元を関連させて「判断基準」を設定するのは、根拠が明確で的確な評価につながるといった。
(中学校教諭)

第5分科会 外国語活動、外国語科



小・中・高の発表を聞き、それぞれの課題が分かった。「判断基準」は実際につくって生徒に還元したい。
(高等学校教諭)

第7分科会 特別支援教育

特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究Ⅱ
～知的障害のある児童生徒の指導目標の設定及び指導内容の選択・組織の工夫～



目標を具体的に立てることの大切さを改めて感じるとともに、チェックリストの評価項目がとても参考になった。
(特別支援学校教諭)



こちらをクリック!

調査研究発表会当日の資料は、センターHPのトップ画面にアップしています。個人研修や校内研修等ぜひ御活用ください。

平成26年度 長期研修者研究発表会

平成27年 2月26日(木)開催



焦点化され、深まりのある研究内容を、熱意を込めて発表することができました。以下は、研修者の研究主題と一年間の研修を通じた感想です。

児童に郷土を愛する心を育むために研究を深めてきました。その中で、道徳教育について基礎から学び直すことができました。また、基礎研修や事例発表会などの様々な研修を通して、教育に対する視野を広げることができたので、これからの指導に生かしたいです。今後、道徳教育は新たな出発を迎えようとしています。一年間の研究の成果を還元し、本県の道徳教育が充実するように取り組んでいきたいです。

始良市立帖佐小学校 四元 大輔 教諭

「郷土のよさを多面的に実感し、郷土を愛する児童を育てる道徳学習の在り方-各教科等との関連を図った道徳の時間の指導を通して-」



「もっと理科のことを学びたい。」という思いで長期研修を希望しました。学んだことはそれ以上で、基礎研修や所員講話、そして朝の会の研究主事のお話が私のものの見方や考え方を考えるきっかけになりました。校種を越えた仲間とこれからもずっとつながっていくことが私の心の支えになります。今後、研究したことを生かして、児童が考えたり説明したりすることも楽しくてたまらないと思える理科学習指導を行っていききたいです。

鹿児島市立八幡小学校 小谷 智美 教諭

「推論する能力を育成する理科学習指導の在り方-モデル化を重視した授業を通して-」



この一年、複式学習指導について研究を行う中で、担当の研究主事の指導やチームとして関わってくださった研究主事、また多くの所員の方からたくさんの視点で改善点などを指導していただき、研究を深めることができました。4月から、この一年間の成果を子供たちはもちろん、学校や地域に還元していきたいと思っています。

南九州市立大丸小学校 松下 静雄 教諭

「複式学級において自ら考え、表現する力を高める授業実践-第5・6学年算数科の間接指導時の対話を中心に-」



この研修で校種の違う先生方と触れ合い、その考えを知ったことは大きな財産となりました。また、自分の教育に対する態度についても考えるよい機会となりました。私の主題である「探究心」は見取りが難しいとは思いますが、学びの原動力となる部分であると考えています。生徒の純粋な興味・関心を探究心へと高める努力を続け、自ら学び続ける態度をもった社会人を一人でも多く輩出したいと思います。

鹿児島県立鹿児島南高等学校 岡野 智和 教諭

「科学的探究心を高める学習指導の在り方-鹿児島の豊かな自然を教材として-」



これまでの指導上の課題を踏まえ、理論と実践を交えた研究に取り組むことができました。また、所内での基礎研修で生徒指導や特別支援教育等について学んだり、研究公開へ参加したりすることもでき、大変有意義な一年でした。今後は、この研究の成果を学校で実践することで、更に研究を深めていきたいと思っています。

霧島市立舞鶴中学校 針原 謙一 教諭

「事象を数理的に考察し表現する能力を高める学習指導に関する研究-文字を用いることのよさを実感させる指導の工夫を通して-」



この長期研修で有意義だったことは、自分のライフワークにしたいと思える「いじめに向かわない児童」というテーマを見つけたこと、これからもつきあい続けていける仲間達に出会えたことです。学校に戻ったら早速年間計画を確かめて、「異年齢の交流活動」を位置付けてみたいと思います。異なる学年での異年齢の交流活動に学校全体で取り組み、小中連携にも生かしていきたいと思っています。

薩摩川内市立隈之城小学校 横山 秀仁 教諭

「いじめに向かわない児童を育てる生徒指導の研究-一意図的・計画的な『異年齢の交流活動』を通して-」



長いようであつという間だった一年間。たくさんの方と出会い、多くのことを学んだ一年間。「素直に、謙虚に、前向きに」という研究や仕事に対する姿勢を教わり、やりがいを感じながら毎日を過ごすことができました。また、研究を通して、子供たちが思考、判断し、力を高めていくことの大切さに気付きました。大人になって活用できる汎用的能力の基礎を育てる教育を目指したいです。

伊佐市立牛尾小学校 宇都 孝幸 教諭

「動きのコツをつかみ、論理的思考力を高める体育学習の創造-『論理的思考のプロセス』を学習活動に生かして-」



この一年間を振り返ると、これまでの実践をじっくりと見つめ直し、理論付けられたことや研究の進め方、資料や文書の作成等について深く学べたことがとても有意義でした。これも、担当の研究主事をはじめとした所員の方々のおかげだと思います。ここで学んだことを、児童や学校、地域のために、学力向上の具体的な指導法を探ったり、研究内容を紹介したりして還元したいと思っています。

曾於市立岩南小学校 久保 昌意 教諭

「情報を読み解き、自分の考えを明確にし、発信することができる児童の育成-国語科学習指導における新聞の活用を通して-」



体育についての文献や先行研究をじっくりと読み、一年を通して、自分の研究にどっぷりとつかることができました。また、担当の研究主事に指導を頂きながら研究を進めることができたため、自分の見えていなかった角度からも研究を進めることができました。一年間の喜怒哀楽を共にした同期の長期研修者とのつながりを今後も大切にしていきたいと思っています。

鹿児島市立草牟田小学校 五代 孝輔 教諭

「より体育好きな児童を育てる体育学習の創造-体育を苦手とする児童に焦点を当てて-」



長期研修を通して、他校種の先生方と交流を深めることで様々な考えを知ることができ、とても有意義な一年でした。所内での各研修はもちろんのこと、小・中学校で開催された公開授業では学習指導や板書の工夫等、とても参考になりました。学校に戻ったら長期研修で学んだことを生かして、生徒が主体的に取り組むような学習指導の工夫を行いたいと思います。

鹿児島県立加治木工業高等学校 北吉 美大 教諭

「『課題研究』における実践的な技術を育成する学習指導の在り方-ものづくりに生かせるコミュニケーション能力の育成を通して-」



「基本的な運動」の指導の手立てを工夫し、検証授業で実践したことに基づいて、引き続きほかの題材でも指導を深めたいです。また、基礎研修、発表会を通して学んだスライドの作成の仕方や分かりやすいプレゼンテーションの方法を授業をはじめ、様々な研修会等で生かしたいと思っています。

鹿児島県立鹿児島養護学校 中園 貴博 教諭

「知的障害のある児童の『基本的な運動』に関する指導の在り方-児童の主体的な活動を目指した授業づくり-」



研究成果物の展示もあり、参加者の皆さんも興味深く閲覧していました。

長期研修者の研究抄録、研究内容は4月にセンターHPに掲載予定

平成26年度 高等学校継続研修 発表会・修了式

平成27年2月6日(金)



修了証書が一人一人の研修者に授与されました。

コース	所属	氏名	発表テーマ
情報システム	鹿児島県立武岡台高等学校	東島 正法	VBAを使用した検定対策ソフトの作成
	鹿児島県立鹿児島工業高等学校	伊東 雅也	制御回路のモジュール化
	鹿児島県立鹿児島水産高等学校	鮫島 正	PICを使用したCW(モールス通信)デコーダ
	鹿児島県立川内商工高等学校	西山 直寿	可視光通信の研究
	鹿児島県立加治木工業高等学校	那須 健史	PICを利用した石鹸製造装置の製作
情報コンテンツ	鹿児島県立大口高等学校	山口 貴正	ICT教育の推進
	鹿児島県立串良商業高等学校	米倉 智幸	VBAを活用した「PTA名簿(地区別)の作成」
	出水市立出水商業高等学校	西園 雄麻	マクロ言語の活用
	霧島市立国分中央高等学校	黒葛川 健人	HtmlとJavaScriptによるスマートフォン用ゲーム開発

研修者の感想

情報セキュリティや知的財産権に関する自分の認識が甘かったと痛感しました。このことについては、教育活動全般を通して、研修の成果を生かしていきたいです。

毎回の研修が新鮮でした。回路製作技術について学ぶことが多く、特にICの性質についてはここで学ばなければ知ることはなかったと思います。これで終わりではなく、今後の実習、研究で生かし、生徒に伝えていきたいです。



研修成果の発表



研修で製作した成果の展示



研修者代表挨拶
(串良商業高校 米倉教諭)



<平成27年度短期研修講座の案内>

今回から各地区ごとの講座案内を配布します。また、センターHPにも掲載しますので、各学校から多くの受講をお願いします。

<「プロジェクト研究」成果の配布>

平成26年度の研究成果を、パンフレットとCDにまとめて各学校等に1部ずつ配布します(4月上旬予定)。校内研修等で御活用ください。

お知らせ



梅の花が咲き薫る三月になった。桜の咲く四月には、新しい長期研修者を迎えることになる。新たな出会いを楽しみにしていると同時に十一人の思いを込めた連風が次に引き継がれ、更に高く揚がるように、今後も研修の充実に努めていきたい。

長期研修制度は、昭和四十四年から始まっており、これまでに当教育センターにおける修了者は千五百七十九人を数えている。この歴史の中に数えられる今年の十一人も、これまでの先輩方と同じように一年間の研修の成果を生かして様々な場所で活躍してほしいと願う。

「成長した姿を見て嬉しかったです。」という有り難い言葉もいただいた。研修に送り出してくださった学校や関係者への感謝の気持ちでいっぱいになった。

一月あとの二月二十六日、長期研修者研究発表会が、当教育センター大原台講堂で教職員や行政関係者約二百人の参加を得て開催された。緊張の中にも十一人の熱き思いがずっしりと伝わる堂々とした発表であった。連風に込められた願いが叶った瞬間でもあった。

研究発表会終了後、参加された在籍校の校長先生から「成長した姿を見て嬉しかったです。」という有り難い言葉もいただいた。研修に送り出してくださった学校や関係者への感謝の気持ちでいっぱいになった。

一月のある日、昼休みに敷地内の哲学の道を歩いていると、長期研修者全員が広場に集まっていた。歩み寄ってみると、

「結ぶ絆 祈願 研究発表会大成功」の文字が書かれている連風を掲げるところであった。空高く揚がっていく五十二連の連風は、十一人が絆で結ばれ、共に支えあって研究に打ち込んだ一年間の真摯な姿と重なった。



「連風に願いを込めて」

次長兼研修部長 室屋 賢三